

流氷間近

1月下旬になると、知床の海に流氷が現れ厳しい冬の到来です。流氷はアムール川河口付近で生まれ、次第に大きさを増していきます。そして、南下し北海道へ向かいます。

流氷が多いと魚が多く集まり豊漁になるといわれています。それはなぜかという、流氷の下には植物性のプランクトンが多く付着し、それを餌にするカニやホタテ、動物性プランクトンが集まってくる。その動物性プランクトンを求め多くの魚が集まって来るからです。

そして、その魚達を求めてやって来たオオワシやオジロワシ、アザラシ達の姿を見ることができます。

港まで入って来たゴマフアザラシが海面から顔を出して可愛いまん丸い目でこっちをじーっと見た折に、アザラシと目が合い嬉しくなった思い出があります。



流氷の下ではコマーシャルにもよく出ている、あの有名なクリオネを観察できます。流氷が接岸した海岸沿いの浅瀬で小指の爪くらいの繊細なクリオネを見た時の感動を今でも思い出します。

流氷の下には豊かな生き物達の営みがあります。流氷は人間や動物達に自然の恵みをもたらします。



親子木工体験

1月13日(土) 9時~12時

小枝、木の葉、流木、小石などを使って親子で作しましょう。
お申込、お問合せは電話01522-3-3009へどうぞ。



冬はイベント用にスキーを練習し、春はタイミングを逃さず草木の芽吹きをカメラに収めたい。 H. T.

昨年イベントでは、蝶の名を聞かれて困ったことがあったので、今年は草花に訪れる蝶の名前と姿を一致させたい。 Y. S.

今年は12年前に登ったきりの羅臼岳登山に挑戦したい。そのためにも余分な脂肪をおとしたい。 目標? kg S. O.

昨年は知床連山を1日で縦走したが、風景や高山植物を見る余裕がなかったので、今年は1~2泊くらいかけて風景や高山植物をゆっくり見ながら縦走したい。 H. T.

人の動き

12月1日付けで、3年間に渡って活躍された企画官の田畑英喜さんが北見分局 指導計画第二課 経営計画企画係長に異動されました。永い間ご苦労様でした。

知床の森から

平成13年1月発行 第70号



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



シンボルマーク「ゲラちゃん」

新年明けましておめでとうございます

山々は純白の雪に覆われ風景はモノトーンとなりました。知床は観光客も去って静けさの中で新たな年を迎えています。

しかし、一步街を離れば、たくさんの動物達が活動しています。鋭い眼差しのおオオワシ、黒っぽい冬毛に覆われたエゾシカなどは国道から普通に見ることが出来ます。また、森林の中へ踏み込めば、イチイの洞から外を覗くエゾクロテン、木々を枝つたいに渡るエゾリスに出会えることもあります。ちなみにヒグマは冬眠中です。

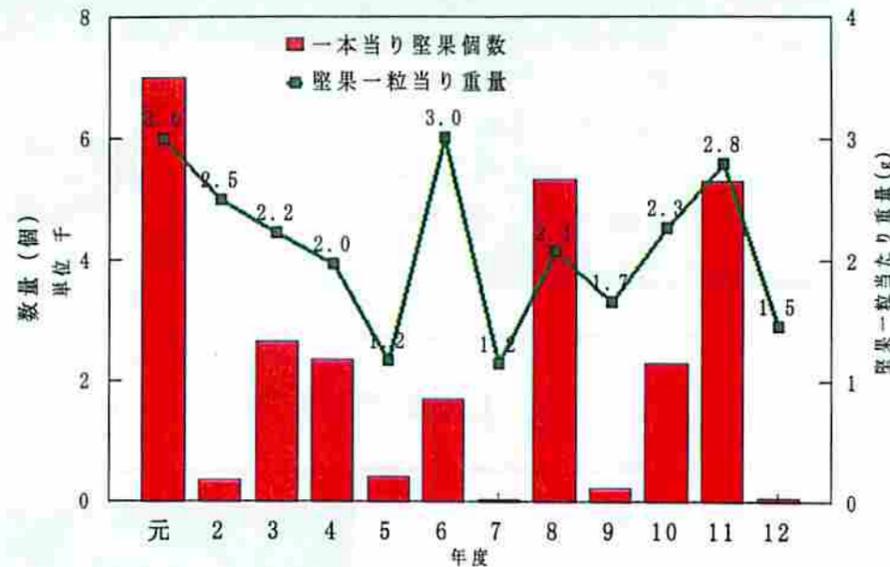
人間には新しい世紀の始まりでも動物にとってはいつもと同じ冬の到来です。ドングリの不作などどこ吹く風で、たくましく冬を乗り切ることでしょう。



「ミズナラ堅果結実調査」

知床半島 今年はドングリ凶作

年度別 堅果個数及び重量



当センターが実施している「ミズナラ堅果結実調査」の今年の調査結果がまとまりました。この調査は知床半島の主要な樹種の一つであるミズナラについて、ドングリの結実状況を調べ、その変動の様子を明らかにするもので、平成元年から毎年実施しています。

調査地を知床半島内の国有林に設けて、25本のミズナラを調査対象としています。

ドングリの収集方法は、各調査木の枝の下に、1枚四方の寒冷紗で作ったシートトラップ（袋状のわな）を3個ずつ設置し、そこに落下するドングリを集めます。

集める期間は9月中旬から10月中旬まで、一週間おきに5回収集しました。

集めたドングリを持ち帰り、重さ、長さ、太さを測ります。

その結果、図のように、豊作だった昨年からは一転して凶作となりました。

調査木1本あたりの堅果生産数はわずかに58粒で、調査してきた12年間の中でも平成7年に次ぐ少ない数です。

また、1粒あたりの重量も1.5gと平成7年、5年について軽くなりました。

本年は生産数が少ない上に重量も軽いという典型的な凶作となっています。

調査地以外の状況を見ても、知床半島のミズナラはおしなべて堅果の実りは少ないようです。

ドングリの豊凶は野生動物に深刻な影響を与えます。特にドングリを大好物としているヒグマや冬眠せず雪を掻きながら採食するエゾシカにとっては、厳しい冬となるでしょう。

知床半島の生態系をしっかりと支えているミズナラ堅果の凶作は、今冬の野生動物たちになんらかの影響を与えるにちがありません。



知床は今



12月、斜里町からウトロに向かう国道の海岸沿いでたくさんのオオワシが上空を舞っているのが見られた。中には、木の枝に止まり餌を足で押さえ、ついぼんでいるオオワシもいました。

オオワシはタカ科オジロワシ属に属する大型の猛禽類です。オジロワシ属は海ワシ属とも呼ばれ海岸や大きな湖、河川など水辺を住み場所に魚を主食とし、その仲間はオジロワシやハクトウワシなど世界に8種が生息しています。

オオワシはの中で最も大きく、全長は1mを越え翼を広げると最大2m40cmにもなります。羽の色は黒と白のコントラストが美しく、鮮やかな黄色の大きなクチバシ、がっしりとした黄色い脚には大きく鋭い爪があり、オオワシは美しく勝つ勇壮な姿をした鳥です。

オオワシの繁殖地は、カムチャッカ半島、アムール川下流域、サハリン北部、マガダン州などのオホーツク海の沿岸部等です。

繁殖を終えたオオワシは秋になると、繁殖地を離れ越冬のために温暖で餌を求めることのできる北海道を中心にした北日本に数多く移動してきます。

オオワシは流水に乗って来るわけではなく、サハリンから宗谷へと陸づたいに南下します。北海道ではオオワシは冬鳥で、知床で普通に観察されるようになるのは10月下旬からです。

越冬期間中のオオワシは知床半島や根室半島と国後島の間を行き来してスケソウダラ等を餌として食べ、春3月には繁殖地に戻り始め、流水が去ってゆく4月にはほとんど見られなくなります。

これから流水で海面が埋め尽くされるまでの間、斜里からウトロに至る海岸沿いでは勇壮なオオワシやオジロワシの滑空が見られるでしょう。

編集室から：平成12年の一年間に当センターのホームページへアクセスして頂いた数は約6,700件でした。たくさんのご訪問ありがとうございました。今年もよろしくお願い致します。